土下座グランプリ

伊藤貴晴　作

【登場人物】

 男１　高校生

 男２　高校生

 男１が立っている。男２が土下座をしている。

男２ すみませんでした

男１ それで謝ってるつもりか？

男２ 本当にすみませんでした

男１ 伝わらないんだよ心が。感じられないんだよ誠意が

男２ 申し訳ありませんでした

男１ 声が小さい

男２ 申し訳ありませんでした

男１ もっと大きな声で

男２ 本当に申し訳ありませんでした

男１ ダメだ。全然ダメだ。何だ、その丸くなった背中は。背筋を伸ばせ

男２ 何なんだ一体

 男２、立ち上がる。

男２ 何でだ？　どうして俺はお前に謝らなくちゃいけないんだ？

男１ どうしてって？

男２ お前に謝ることなんてひとつもないよ

男１ そんなことないよ。何かひとつくらいあるだろ

男２ ひとつくらい？

男１ よく考えろ。本当にお前は謝ることがないのか？

男２ この前の消しゴムか

男１ 消しゴム？

男２ この前、消しゴム借りたろ。それを力入れすぎて真っ二つにしちまって

男１ ああ、そうだったな。さ、謝れ

男２ 土下座してまで謝ることか？

男１ 俺の消しゴムが真っ二つにされて痛い痛いって泣いてるよ

男２ お前を真っ二つにしてやろうか

男１ 何でもいいんだよ、練習なんだから

男２ 練習？

男１ 土下座の練習

男２ 土下座の練習？

男１ そう

男２ 何それ？

男１ 美しく土下座をするための練習

男２ 何で？

男１ これだよ

 男１、男２に紙を渡す。

男２ 全日本土下座グランプリ

男１ そう

男２ 何これ？

男１ 出るぞ

男２ は？

男１ 出るぞ、俺たち二人で

男２ お前、本当に真っ二つになるか？

男１ よく見ろ、ほら、二百万だぞ、賞金二百万

男２ 土下座は世界に誇る日本の文化です。西洋化によって日本の心は失われつつあります。イスとテーブルの上には本当の心の交流はありません。日本の心は畳の上にあります。世界で最も美しい謝罪の形、土下座。その頂点を目指してみませんか

男１ 美しい日本を取り戻そう

男２ 何これ？

男１ だから、全日本土下座グランプリ

男２ 意味が分からない

男１ よく読め。年齢、性別問わず。二人一組で土下座のシチュエーションを再現する。いかに美しく謝り、いかに美しく許されるかを競うんだ

男２ ふーん

男１ 出るぞ

男２ 出ない

男１ 何で？

男２ 何だよ、この胡散臭い企画

男１ 胡散臭くないよ。文科省お墨付き。審査員は各界の著名人

男２ 本当か？

男１ まだあんまり知られてないからな。俺も最近知ったんだけど。失われつつある日本の文化を取り戻そうっていう

男２ それで土下座？

男１ そう

男２ やらない

男１ 何でだよ、二百万だぞ、二百万

男２ 仮にこれが権威ある大会で、賞金が二百万だとしてもだ。何で俺が謝る方なんだ？

男１ だって楽しいじゃん、俺が

男２ 絶対やらない

男１ そんなこと言うなよ。土下座されるのってすげぇ気持ちいいんだぞ

男２ それ楽しいのってお前だけだろ

男１ いや、お前だって絶対楽しくなるって

男２ どこが？

男１ マゾヒスティックなお前の本性がビビビっと刺激されて

男２ ねぇよそんなもん

男１ 土下座に快感を覚えてさ

男２ 覚えねぇよ

男１ やろうよ、頼むよ

男２ だったらお前が謝る方やれよ

男１ ダメだよ、俺のサディスティックな心が拒否するんだもん

男２ おかしいだろ、俺がお前に謝るのって

男１ でもお前、俺の消しゴム真っ二つにしたじゃん

男２ その程度だろ。消しゴム割ったくらいで土下座しなきゃいけないのか？

男１ 大切なのは誠意だよ

男２ お前の方が俺に謝ることあるだろ？

男１ え？　ないよ？

 間。

男１ 何？

男２ よく考えろ。俺に謝ること、あるよな？

 間。

男１ ごめん、全然思いつかない

男２ 俺はいくらでも思いつくんだけど

男１ え？　どんなの？

男２ たとえば、この前、俺の弁当食ったろ

男１ あぁ、あれは説明したろ。鞄、間違えたんだって

男２ 弁当箱がいつもと違うことに気付けよ

男１ 弁当箱替わったんだなって

男２ そうか。その俺の弁当食ったのが二限の後だったな

男１ うん

男２ だったら何で三限の後に自分の弁当を食うんだよ

男１ あ、弁当二つある。ラッキー

男２ おかしいだろ。弁当が二つもあったら

男１ 弁当二つも作ってくれたんだ、俺のために。母さん最高。大好きって思った

男２ それで昼休みに弁当ないのに気付いて、散々文句言って、仕方なく購買に行こうとした俺に、お前、何て言った？

男１ あ、購買行くならメロンパン買ってきて

男２ どれだけ自分勝手なんだお前は。そしてどれだけ食うんだお前は

男１ お腹が空いてたんだよ

男２ 久々に殺意を抱いたよ

男１ 人殺しはよくないよ

男２ 俺の人生で、何度お前を殺したいと思ったか

男１ え？　そうなの？

男２ お前は全部忘れてるかもしれないけどな、俺は全部覚えてるんだよ。俺の期末テストを全部紙飛行機にして飛ばしたり、俺の傘にでっかいうんこの絵を描いたり、釣りに行こうって言うから仕方なく付いていって、でも全然釣れないからつまんねーとか言い出して、俺は結構面白くなってたのに、魚がかかった瞬間に俺を池に突き落として逃げたり

男１ あぁ、あったなそんなこと

男２ 何で俺の進路希望調査の紙に勝手にニートって書くんだよ

男１ 格好いいじゃん、ニート

男２ 学校に親まで呼び出されたんだぞ。担任に「お前の将来は大丈夫か？」って言われたんだぞ

男１ 何？　親まで呼ばれたの？　熱血だねぇ、お前の担任

男２ 事情を説明するのに二時間かかったよ

男１ お疲れ様

男２ どうして俺がそんな目に遭わなきゃならないんだ

男１ ドンマイ

男２ いつか殺してやる

男１ 確かに、俺はお前に色々ひどいことしたかもしれない。お前とは家が近所で、学校も一緒で、お前とはいつも一緒だった。それでいつもお前にいたずらしてた。友達として最低かもしれない。今更謝っても許してもらえないかもしれない。でもこれだけは言わせてくれ。過ぎたことは忘れよう

男２ てめぇ

男１ で、土下座の仕方なんだけどさ

男２ 帰る

男１ 待てって。お前、ホバリングってできる？

男２ ホバリング？

男１ うん

男２ 何それ？

男１ こう、宙に浮いて止まるの

男２ できるか

男１ できろよ

男２ 土下座と何の関係があるんだ

男１ 普通に土下座してもつまんないからさ。ホバリング土下座

男２ できるか

男１ できろよ

男２ そんなことできるなら宗教開くよ

男１ え？　何教？

男２ ……お前と会話してると疲れる

男１ じゃあさ、ジャンピング土下座は？

男２ できない

男１ できろよ

男２ 何だよそれ？

男１ おもいっきりジャンプして、その勢いで土下座。で、膝の骨を折る

男２ 何で？

男１ 勢い

男２ ふーん

男１ 膝の骨折るとさ、痛いじゃん

男２ うん

男１ 痛いと涙出るだろ？

男２ うん

男１ 感動的じゃない？

男２ いいや

男１ 涙って必要だと思うんだよ

男２ そのためだけに膝の骨折るのか？

男１ 痛みをこらえて、大粒の涙を流して。そこまでされたら、あぁ、許してやらなきゃって思うじゃない

男２ そこまでして許されなきゃならないことって何だ？

男１ それはまぁこれから考えようよ

男２ 考えない。膝の骨も折らない

男１ 折ろうよ。ちょっとだけでいいから

男２ できるわけないだろ

男１ できるよ、お前ならできる

男２ ふざけんな。無理だ

男１ 諦めたらそこで試合終了ですよ　※１

男２ じゃあお前できるのか？

男１ できるね。俺の辞書に不可能の文字はない

男２ ほう

男１ でもやりたくないことはやらない

男２ やらないんじゃん

男１ じゃあ骨は折らなくていいよ。そのかわり血を流そう

男２ は？

男１ 謝るんだからそれなりのリスクが必要だと思わない？

男２ 思わない

男１ 土下座してさ、頭をガンガン床に叩きつける。それで額から血を流して、涙を流す。どう？

男２ 俺に同意を求めるな

男１ 血と涙でドロドロの顔見たらさ、あぁ、許してやらなきゃって思うだろ？

男２ それは思うかもしれないけど

男１ だろ？　じゃあそれでいこう

男２ いかない

男１ いけよ

男２ さっきも聞いたけどさ、何で俺に土下座させようとしてるわけ？

男１ その方がおもしろいから

男２ 俺は全然おもしろくないんだよ

男１ そんなことないって

男２ お前が土下座するなら出てもいいよ

男１ 俺が？

男２ ああ

男１ それって、俺が今土下座してお願いしたら、お前が土下座して血ダラダラ流す役で大会に出てくれるってこと？

男２ 違う。お前が土下座する役で出ろ

男１ 嫌だよ

男２ 何で？

男１ 格好悪いじゃん

男２ じゃあ俺にやらせようとするな

男１ お前なら大丈夫そうかなって

男２ 嫌だよ

男１ そんなこと言うなって

男２ 何で俺が土下座しなきゃいけないんだ？

男１ だからそれは

男２ お前が謝れば何の問題もないんだよ

男１ 謝ったら負けじゃない？

男２ ……

男１ でさ、もし優勝したら、賞金は

男２ いい加減にしろ

 間。

男２ ずっとそうだったよ。お前は絶対謝らない。どれだけひどいことしても、どれだけ迷惑かけても、お前は絶対謝らない。もううんざりだ。付き合ってられない

男１ どうしたんだよ？

男２ 我慢の限界だって言ってんだよ。友達だと思って今までずっと我慢してきた。もう無理だ。耐えられない

男１ 何言い出すんだよ。そりゃ、ちょっとふざけすぎたことはあるけどさ、許してくれよ、それくらい。友達だろ？

男２ もうやめる

男１ え？

男２ お前と友達やめる

男１ え？　やめるって

男２ もう関わりたくない

 間。

男１ 急にそんなこと言われても

男２ 急じゃない。ずっと考えてた。いつもお前に振り回されてばかりで、疲れたんだよ

男１ それにしたってさ。友達やめるなんて、小学生じゃあるまいし

男２ だったら今までのこと全部謝れ。今ここで土下座して謝れ

男１ 土下座？　お前、友達に土下座しろって言うのか？

男２ さっきまで俺にやらせようとしてたろ？

男１ それは大会のためだろ。本気でやれなんて言ってないよ

男２ 関係ないよ。お前が一言「ごめん」って言えば済んだんだ

男１ そんなに怒ることないじゃないか

男２ 気安く話しかけるな。お前なんかもう友達じゃないよ

 間。

男１ 土下座すればいいのか？

男２ え？

男１ 土下座して謝ればいいのか？

男２ ああ

 男１、膝をつく。

男１ できないな

男２ 何だと？

男１ 苦手なんだよ、謝るのって。恥ずかしくてさ。自分が悪いことしたって認めたくないのかな

男２ 俺がどれだけ嫌な思いしたか分かってるか？

男１ お前なら分かってくれると思ってたよ。やっぱりお前が一番の友達だもん。お前といるとすげぇ楽しいんだよ。俺が調子に乗ってもさ、お前なら許してくれると思ってた

男２ 俺はそんなに心広くないよ

男１ そうだよな。当たり前だよな。全部俺が悪いんだよな

男２ ……

男１ 友達やめるって言われても仕方ない。俺が悪いんだ。土下座しろって言われるのも当然だ。でも俺、お前と大会出たいんだ。お前とだったら優勝できると思うんだ。許してもらえないかもしれないけど、頼みがある。もし賞金二百万を全部俺にくれたら、俺はお前と友達やめてもいい

男２ ……は？

男１ お願いします。一生のお願いです

男２ お前って最低だな

男１ どうだ？

男２ 却下

男１ 頼むよ

男２ 真剣だった自分がバカらしくなる

男１ うーん、賞金総取りっていうのはさすがに不公平か。じゃあお前に五十万やるから、俺が百五十万

男２ 十分不公平だろ

男１ 頼むよ、手切れ金ってことでいいから

男２ お前にそんなことする義理はない

男１ つれないこと言うなよ

男２ 友達やめてもいいんだろ？

男１ 冗談に決まってるだろ、親友

男２ 気安く話しかけないでもらえませんか？

男１ どうしても金がいるんだ

男２ 自分で何とかしろ

男１ 親父が倒れたんだ

 間。

男２ また嘘だろ

男１ 嘘じゃない。本当なんだ。血吐いて入院したんだよ。胃潰瘍だって

男２ 大丈夫なのか？

男１ 原因は過労かストレスらしいんだけど、倒れるまで働かなくてもいいと思わないか？　ま、ゆっくり休めば大丈夫だろうって

男２ そうか

男１ でも、仕事は辞めなきゃならないかもしれない

男２ それで金がいるのか？

男１ いや、当面の生活は何とかなるはずなんだけど。金がいるのはもっと個人的な理由

男２ 個人的な？

男１ 進学したいんだ

男２ は？

男１ 大学に行こうと思ってる

男２ 大学？　お前が？

男１ でも親父がそんな状況だろ？　授業料払えないんだよ

男２ ちょっと待てよ。大学って、お前が大学行くのか？

男１ そうだよ

男２ 何考えてるんだよ

男１ 俺ってさ、世の中のこと全然知らないんだよ

男２ え？

男１ 今はこんな風にのほほんと暮らしてるけどさ、世の中って結構複雑なんだよな

男２ そりゃそうだろ

男１ そういう、この世界のいろんなこと知らないで生きてくのかって思ったら、何か空しくなったんだ

男２ ……熱でもあるんじゃないか？

男１ 真面目に考えてるんだよ、これでも。簡単に言うとさ、バカのままでいたくないんだ。大学っていろんな勉強ができるんだろ？　今まではバカでいいと思ってた。でも、もう少し利口になりたい

男２ そっか

男１ 別に信じてくれなくていい。お前が俺のことバカにするならそれでいい。友達やめたいならそれでも構わない。今まで迷惑かけたツケだ。許してもらおうなんて虫のいいこと考えてない。ただ、協力してほしいんだ。今回だけでいい。もう二度と迷惑かけない

 男１、土下座する。

男１ 初めてまともに生きようって思ったんだ。頼む

 間。

男２ 初めからそう言えばいいんだよ

男１ え？

男２ 協力するよ。友達だろ？

男１ ……ありがとう

 男２、手を叩く。

男２ 大体の流れはこんな感じだな

男１ すっげぇいい話。自分でやってて涙出そう

男２ 本番でもちゃんと泣けよ

男１ 楽勝

男２ じゃ、段取り確認するぞ。まずお前が土下座グランプリに誘う

男１ お前が過去の俺に対してキレる

男２ 無視するお前

男１ 友達やめる発言

男２ 親父さんが倒れる

男１ 胃潰瘍ってどうなのかな？

男２ 何が？

男１ いっそのこと死んじゃった方がよくない？

男２ あんまり現実から離れるとリアリティがなくなるよ

男１ 無難なとこだな

男２ で、進学したがって

男１ 土下座

男２ 仲直り

男１ 完璧

男２ これなら優勝できるだろ

男１ 賞金はちゃんと半分ずつだからな

男２ 分かってるよ

男１ 待ってろよ、二百万

 終わり。

【参考】

※１　『スラムダンク』井上武彦